

## 令和3年度 日本大学東北高等学校 自己評価票

### 〔本校の目指す学校像〕

日本大学の目的及び使命に基づき、「忠恕の心」「自主創造」「真剣力行」を教育方針（校訓）とし、高大連携教育を推進しつつ、地域の多様なニーズに応えることのできる総合力を持つ高校としての発展を目指す。

### 〔本校の特徴及び課題〕

日本大学工学部に併設する工業高校として昭和26年に創設された。その後、社会や時代の要請により改革を進め、現在は日本大学付属の進学校として地域社会に定着、評価されている。

#### 〔特 長〕

- 1 教育方針に基づき、明るく思いやりがあり、強い意志を持つ創造性豊かな人間を育てる。
- 2 日本大学への進学を軸に、地域性を考慮しつつ、生徒の多様な進路目標の実現を図る。
- 3 自主自立的な精神を養い、心身ともに健康的な生活習慣の確立を目指している。
- 4 専任の心理カウンセラーが、心の問題を抱えた生徒や保護者の相談に当たっている。
- 5 人とのコミュニケーションを大切にし、感動する心を育てるため、生徒会活動にも積極的に取り組んでいる。
- 6 充実したICT教育環境のもと、生徒の進路実現に向け最先端の授業を展開する。

#### 〔課 題〕

- 1 急激な少子化の中での安定的な入学生の確保
- 2 生徒の学習意欲の向上と家庭学習の充実
- 3 ICT (iPad) を活用した、継続的な授業研究による教員のスキルアップ
- 4 高大接続改革の一環として、工学部と連携したクラス（ロハスクラス）の運営と展開

## 令和3年度の取組結果

### 〔概況〕

「学校自己点検・評価」等の評価結果を踏まえ、校務分掌ごとに課題に取り組んだ結果、多くの面で改善が見られ適切な運営が展開されるようになった。今後はより一層、評価が高かった項目は更に伸ばし、直すべきところは改善して校務運営に取り組んでいかなければならない。

昨年、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、リモートによる授業を展開したことで、ICTを活用した授業が一気に進んだ。本年度も、コロナ禍の影響で、休校となる期間が生じたため、大幅な行事予定の見直しとなったが、昨年の経験から乗り切ることができ、教職員のスキルが一段と向上したと感じている。次年度からは、新学習指導要領で求められている資質・能力の育成を目指しICTを活用した授業内容の充実と、生徒の学力向上に向けた実のある研修を進めていかなければならない。そのためには、今まで取り組んできた研究・公開授業等（今年度は一部中止）を充実させ、PDCAサイクルを回していくことが重要である。

高大連携を更に強化していく教育として、工学部との連携クラス（ロハスクラス）が開始され、地域密着型の付属高校としての魅力づくりに全力で取り組んでいる。さらに、新学習指導要領で求められている「自ら考え、表現し、判断し、実際の社会に役立てる力」を身につける教育、及び日本大学憲章でうたわれている自ら「学ぶ・考える・道をひらく」の実現に向け、学校設定科目等の内容を充実させた新カリキュラムを策定することができた。教育環境が日々進歩していく中で、教員の授業力の向上と、多感な生徒へのきめ細かな対応を組織的に行うために、「ホウレンソウ」を徹底し、生徒と保護者の本校満足度アップに努めていきたい。

## 教育活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
「新学習指導要領」, 「高大接続改革」施行 に向けての取組	令和4年度から実施される新課程カリキュラムを、予定どおり完成させることができた。また、工学部との高大接続教育の一環である1学年対象のキャリアインタビューや、今年度より運用された2学年9月からの、工学部連携クラス（ロハスクラス）は、高校と大学の垣根を取り払った、次世代型の高大連携となるよう取り組んでいる。これらの連携プログラムを軌道に乗せることで、生徒の進路実現に向けた学びの出発点となると同時に、より一層の連携強化につながると思われる。	A
アクティブラーニング 教育を充実させる ための取組	iPadを利用したアクティブラーニング型授業を充実させ、新学習指導要領で求めている「自分で考え、表現し、判断し、実際の社会に役立てる力」を意識した発展的な授業を目標に据えて展開することができた。昨年度のリモート授業により一気に進んだICT授業の、更なるスキルアップを図るために、教務部とICT活用推進委員会、各科・学年会が連携し、探究・共有できるように取り組むことができた。	A
生徒が主体的に取り 組める学習環境の充 実	部活動と学業の両立ができていない生徒アンケートをもとに、生徒会指導部と連携しながら部活動の見直しを進めるとともに、生徒の学習時間を確保できるよう、練習内容の効率化と部活ごとに定められている下校時刻の徹底を図り、少しずつ浸透してきた。また、自学の習慣を身につけさせるために、可能な限りの自学室の開放、アクティブラーニング室での個別指導など、目的に応じ利用を促すことができた。	A

## 学校生活への配慮

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
いじめ防止のための 取組	年3回学校生活アンケートを実施して、問題となる事案に対しては、教育相談委員会を適宜開催し、早期対応に努めた。校長の指導のもと、学年主任、担任、委員会関係者との連携を密にし、問題事案に対応できた。幸い今年度は「いじめ」と認定される事例は報告されていない。	A
生徒の自律心の育成	生徒の自律心を育成する取組を継続している。服装頭髪について、教員による服装頭髪指導の回数を減らし、代わりに毎月実施する「身だしなみ向上週間」で生徒自身にセルフチェックを行わせ改善する指導を、年間を通して実施した。徐々にではあるが、セルフチェックで改善する傾向が見られるようになってきた。さらに、風紀委員による啓もう活動を同時に行った。校則に関して、教員が一方的に決めるのではなく、生徒に考えさせてそれを自分たちで守る気持ちを持たせるために、生徒会役員と男子生徒の頭髪規定の改定に向けての協議をして、今年度より改定した。生徒会の自発的な協力もあり、生徒間に校則遵守の気運ができてきた。	A
安全教育の推進	新型コロナウイルス感染症のため、全校集会による講演会は実施できなかったが、校内設備を利用した動画配信による講演会や本校教員による代替の講話を行い対応した。この状況は次年度も継続すると思われるので、継続して対応していく必要がある。交通事故にあった際、被害者・加害者のそれぞれの立場でとるべき行動をマニュアル化した「緊急時対応マニュアル」を、携帯できる形で配布し、適切な対応をとることができるように指導をした。	B

## 課外活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じた上での学校行事の運営と充実	昨年度に引き続き今年度も、新型コロナウイルス感染拡大との戦いとなった。そのような中でICT等を利用して、従来とは異なる形式で学校行事を実施することができた。具体的には、全校生徒が体育館に集合する生徒総会、部活動説明会、開閉会式、立会演説会、予餞会などは各教室へのLive及び録画配信で行った。文化祭は学内公開のみ、分散登校で開催し、中止を避けることができた。また、ICT等を活用して学校行事を開催することにより、従来とは異なる良さやより良い学校行事の開催方法についても気付くことができた。 学校自己点検・評価の「学校行事の充実や、積極的に参加・協力させるための方策が講じられているか」の設問に対する評価が3.13と、全付属平均及び本校昨年度を大きく上回っている。	B
「部活動指導員制度」及び「民間への部活動指導委託」の研究及び利用体制の構築	2018年度にスポーツ庁及び文化庁から「部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が示された。同年度には、「部活動指導員制度」の運用も始まっている。また、2023年度から「民間への部活動指導の委託」も始まる予定である。学校教育における部活動の位置付けや本校における部活動への取組について、いま一度検討する段階にきている。 このような状況の中、上記ガイドラインや部活動指導員に関する研究及び利用体制の構築が急務となっている。部活動に携わる顧問個人レベルでの研究等は見られるが、組織としての研究及び利用体制の構築には至っていない。	C

## 進路指導

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
日本大学への進学者数増加に向けた取組	過去のデータ分析から、日本大学への進学者数増加のためには「3年次9月の時点での日本大学進学希望者数を増やす」ことが重要であることが判明していた。令和3年度3年生については、進路指導部と学年会のタイアップによる3年間の系統化したキャリア教育により、日本大学進学希望者が1年次9月の調査以降増え続け、過去最多の日本大学進学者数（1月14日現在233名〔前年度185名〕）を実現することができた。	A
基礎学力到達度テストにおける成績の向上	「本校生の入学時の成績」と「基礎学力選抜方式による日本大学進学に必要な学力」を分析し、そのプロセスとして理想的なPDCAサイクルの確立に努めた。進路指導部内でのPDCAサイクルの構築はおおむね完成したが、各学年会や各教科会との共有が徹底できず、分掌を横断する組織的取組に至ることができなかったこともあり、望まれる結果につなげることができなかった。	C
化学・生物選択生徒の日本大学への進学率の向上	学年会とのタイアップにより、日本大学の化学・生物系の学部学科の魅力などの情報を当該クラス担任より生徒に周知し、化学・生物選択生徒の日本大学への進学意欲の高揚を図り成果を挙げた。（1月14日現在53.8%〔前年度38.6%〕）	A

保健衛生

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
教育相談体制	本校専属カウンセラーが、教員と連携協力しそれぞれの生徒の状況に応じたきめ細かい対応が行われている。また、生徒支援室と担任・学年会・生活指導部と連携が円滑に行われており、複数教員による生徒のサポート体制が確立されている。本校の現状と地域性を含めて考えると、専属カウンセラーが常駐する体制は妥当であり、更なる協力体制及び生徒対応の組織化を構築していきたい。	A
性に関する指導	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、7月に講師を招いて実施予定であった講演会や集会等が中止となり、未達成である。	D
避難訓練及びシェイクアウト訓練	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、消防署の方を招いた避難訓練は中止となった。また、教員対象の避難器具講習会も中止となった。 全校放送と担任の協力のもと、避難経路の確認に努めている。また、机の下に身を隠し身の安全を守る「シェイクアウト訓練」を5月に実施し、防災意識を高めた。生徒の身の安全を守るため、来年度以降も継続的に実施予定である。	B

図書

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
図書室利用の推進	図書室は学校の中心に位置し、新しく明るい環境にある。しかしスペースが狭く、閲覧用の机も少ない。新型コロナ感染予防のため閲覧の席数を更に減らしているので、図書室でゆっくり本を読むというよりは、必要な本を借りるだけのところという場所になっており、本に興味がない生徒が図書館を利用するにはハードルが高い現状である。そのため、通路に面した入り口のディスプレイを工夫して生徒が面白いと感じるような本を並べている。また、今年図書室のカウンターには、検索用のパソコンを設置し、書籍を探しやすいようにした。本校では、まだ図書館を利用したことがない生徒が圧倒的に多いので、さらに、新しい読書指導の方法を工夫する必要があると考える。 各クラスに、学級文庫（書籍約30冊）を設置し、教室での読書習慣の確立を目指しているが、例年どおり、あまり利用する生徒が少ないのが現状である。 図書委員の仕事は、学級文庫の設置と管理、図書館業務の手伝い、また、2月には図書委員の生徒が中心になって原稿を集めた「図書便り第4号」を発行するなどがあり、生徒は積極的に取り組んでいた。また、本年度も「生徒が作る図書館」をコンセプトに、生徒が図書館の本を選ぶ「日大東北選書ツアー」を3年生の特別授業の中で実施した。新型コロナウイルスの感染に注意しながら、ジュンク堂郡山店で、31名の生徒が参加し、40冊程度の本を選書した。選書した本は、図書部で確認の上購入し、4月から展示貸し出しを行う。 今年も国語科と協力して校内文芸コンクールを実施した。優秀な作品に対して、賞状、賞品を授与して、文芸作品の創作意欲の高揚に協力できた。また、3年生を対象に、「貸し出しベストテン」を発表し、記念品を贈呈した。	B
芸術鑑賞会の充実	芸術鑑賞テーマの「演劇」のジャンルから、昨年中止した劇団アルファの「竜馬からの手紙」を「けんしん郡山文化センター」で鑑賞する予定であったが、昨年2月に起きた福島県沖地震で「けんしん郡山文化センター」が利用できなくなり、また新型コロナウイルスの感染防止の観点から芸術鑑賞会を中止することとなった。同じ作品を来年度に上演することを決定した。	C

## 広報

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
広報活動	<p>本校の特色や高大連携教育が理解しやすい学校案内（パンフレット）の作成に努めた。また、TVCMや学校紹介動画を作成した。</p> <p>本校のPR活動に欠かせない広報誌を年3回発行し、県内各中学校及び関係各機関に送り、本校の教育活動などを紹介し理解を深めてもらう手段として大いに活用した。さらに、ホームページの更新をできるだけ即時に行うなど、学校行事等の広報活動を積極的に行った。</p>	A
生徒募集活動	<p>昨年度に引き続き生徒募集活動を第一に取り組んできた。今年度も昨年度同様、新型コロナウイルス感染防止のためオープンスクールなどの学校説明会イベントはハイスクールビジットを中止し参加者数を制限し、規模を縮小して実施した。参加者数は前年度より351名増の2,479名であった。</p> <p>効果的に入学者数を増やす施策として、最初のPR機会であるオープンスクールの参加者に対して本校に興味を持たせ、そこで入試説明会への参加を促した。その結果、入試説明会の参加者数は698名であった。入試説明会では本校の魅力を効果的にPRしたことによって専願推薦の出願者が297名であった。前年度より31名減少したが、この理由は、8月に福島県総務部より入学者数が収容定員（480名）超過による実態調査があり、生徒募集に向けての改善案を提出する要望があった。本校としては令和4年度1年生が500名を超えないように努めなくてはならなくなり、出願基準（優遇）をやや厳しくし入学者数を減らす意図があったので特に問題はない。</p> <p>以上の結果、今年度の目標としていた安定した専願推薦志願者数を確保することができた。</p>	A

## 管理運営

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
個々の教職員の課題把握	<p>校務運営委員会及び教職員会議で、教職員が積極的な発言や意思疎通が図られるような雰囲気づくりと、会議進行等を工夫するなど、一定の効果が見られた。また、有効な伝達手段としてiPadを利用した会議が行われるようになった。</p>	A
環境問題への取組	<p>冷暖房の設定温度を夏季28℃、冬季22℃に設定した節電に取り組み、夏季のクールビス着用や、照明及びエアコンの消し忘れ等の確認を行った。SDGsが掲げられる中で、節電を中心に生徒の環境に対する意識の向上が見られるようになってきた。</p>	A
自己点検評価委員会を中心としたPDCAサイクルの構築	<p>「生徒による授業評価アンケート」の結果及び「教員自己評価チェックシート」の評価項目に基づき自己評価を行うことで、教員各自の授業改善につなげることができている。また、「学校自己点検・評価」の結果を基に、各校務分掌において改善点を修正しながら校務に取り組んでいることから、全教職員が意識をもって実践していくPDCAサイクルの構築が図られてきている。</p>	A
施設及び設備の安全と維持管理	<p>新校舎の運用が始まり、学校全体の施設及び設備の充実が格段に向上し、生徒が安心して学校生活を送れるようになった。コロナ禍における換気の面でも、空調設備等の充実により安心して授業が展開できる環境が整備された。今後も、常に危機管理を意識しながら、維持管理を徹底し、安心・安全な教育環境を提供していく。</p>	A

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

## 新型コロナウイルス感染症に関する対応と今後の課題について

### <教育活動>

昨年度のコロナ禍によるリモート授業により、一気に進んだICT授業の更なるスキルアップを図るために、教務部とICT活用推進委員会、各科・学年会が連携し、探究・共有できるように取り組んでいくことが重要である。今後は、さらに、研修の機会を重ねていながら、内容の充実を図るとともに、iPadの有効活用について更に研究を進めていく。

### <学校生活への配慮>

一部の講演会が新型コロナウイルス感染症のため実施することができず、代わりに教員による講話を行ったが、資料の準備等に限界があり、十分な効果を得ることはできなかった。この状況は次年度も継続すると思われるので、対策を考えていく。

### <課外活動>

部活動については、新型コロナウイルス拡大期間は県のガイドラインに沿って対応した。感染者数が少ない状況においても、基本的には県の指示に沿って、感染防止対策を十分に行い実施してきている。練習時間の短縮・練習試合・遠征等についても全て報告させ感染拡大している地域への移動に制限を加えた。

学校行事については、三密回避を徹底するとともに、ICT等を有効利用し、新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じた上で、従来に近い形での学校行事の開催・運営を行った。

### <進路指導>

コロナ禍の影響から当初の計画どおりの形で遂行できない行事もあったが、ICT環境の活用などによって当初の指導目的を果たすことができた。その結果、日本大学への進学者数は過去5年間で最も多くなった。

### <保健衛生>

新型コロナウイルス感染防止対策の啓もう、各教室のアルコール消毒、検温、換気等の環境整備、精神的ケア等、感染状況に対応し適切な取組を行っている。今後も継続して感染防止対策を徹底していくと同時に、感染症防止対策の徹底及び注意喚起のためのメッセージを適切に発信していく。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、消防署の方を招いた避難訓練及び教員対象の避難器具講習会が中止となった。新校舎も完成し新しい教育環境の中での危機管理体制の確立及び生徒・教職員の危機管理に向けた意識向上への取組を実施していく。

## 令和4年度の取組目標及び方策

### 教育活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
「新学習指導要領」「高大接続改革」施行に向けての取組	新カリキュラムに設定した学校設定科目をどのように展開していくか、各教科を中心に検討を進めていく。 また、2年生の工学部連携（ロハス）クラスへの取組を通して、探究活動への興味関心を高める。	学校設定科目の扱いについて、各教科会で内容を決定する。工学部連携クラスについては、教務部の担当を中心に、大学と高校の連携を図り、理系選択者の裾野を広げる。
定期試験を厳正かつ公正に実施するための取組	各教科（科目）間の平均点・評価方法、試験問題の内容、追試について、関係分掌と協議しながら、教務部として継続的に検討に入る。	追試と学習評価の内規検討も含め、教務部会・教科主任会議を中心に、昨年に引き続き協議していく。
アクティブラーニング教育を充実させるための取組	全ての教科で行っている研究公開授業（令和3年度はコロナ禍の影響で中止）の充実を図り、iPadの有効活用について、継続して教科・ICT活用推進委員会の中で検討を進めていく。アクティブラーニング型の授業展開についても研修と実践を進めていく。	年3回の時期を設けて実施してきた研究公開授業だが、特定の時期に集中するため、分散するように教科主任会議で協議していく。

## 学校生活への配慮

取組目標	取組方策	取組スケジュール
いじめ防止のための取組	アンケート後の対応について担任・学年会・教育相談委員会との連携を更に密にし、初期対応に当たる。	昨年度の取組状況をもとに、教職員間の情報共有を図り事案に対応していけるスキルを身につける。
生徒の自律心の育成	教員からの指導ではなく、自主的に校則を遵守できる生徒の自律心を育成していく。自分達でルールを作成し、それをどうやって守るかを考えさせていく。	身だしなみ向上週間で風紀委員による啓もう活動を行い充実させいく。校則の見直しに関する生徒会との協議を継続していく。
安全教育の推進	校内だけではなく、外部からの危険が多くなってきていることから、各種安全教育を徹底していく。具体的にはSNSの諸問題、違法薬物防止、不審者対策について取り組んでいく。	緊急時対応マニュアルを作成し、交通事故・不審者に対する対応を指導していく。 指導部だより・広報等を通して保護者への啓もうを図り、家庭との連携を強化する。

## 課外活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じた上での学校行事の運営と充実	昨年度に引き続きに、新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じ、ICT等を効果的に活用し、学校行事の開催・運営を模索する。 また、従来の学校行事の開催方法をいま一度見つめ直し、新たな方法での学校行事の充実を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度同様、新型コロナウイルス対策を講じ、安易に中止・縮小するのではなく、充実した学校行事を検討する。</li> <li>・ICT等を有効活用し、学校行事の新たな開催方法、企画・運営を模索する。</li> </ul>
本校の教育活動における部活動の位置付けと適正な運営方針の研究	「部活動の在り方に関する総合的なガイドライン(2018年度)」、「部活動指導員制度(2018年度)」、「民間への部活動指導の委託(2023年度)」等の研究を通して、本校の教育活動における部活動の位置付けと各部活動の適正な運営方針を模索する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入後3年が経過した「総合的ガイドライン」のもとでの部活動運営を振り返り、部活動の適正な運営を模索する。</li> <li>・「部活動指導員」、「民間委託」について研究し、導入を検討する。</li> </ul>

## 進路指導

取組目標	取組方策	取組スケジュール
日本大学への進学者数増加に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在実施している日本大学各学部との高大連携によるキャリア教育の効果を高め、日本大学への進学希望者数増加を目指す。</li> <li>・「基礎学力選抜方式」による日本大学進学者数の増加を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高大連携教育の行事である、キャリアインタビュー(1年次)、ロハスクラス①(2年次)の成果を、当該学年だけでなく、全校で共有できるよう工夫する。</li> <li>・「入学時学力層ごとの成績推移」及び「定期試験・対外試験と基礎学力到達度テストの相関性」を分析し、各層の学力向上につながる教育活動を設計する。</li> </ul>

## 保健衛生

取組目標	取組方策	取組スケジュール
教育相談体制の推進	本校専属カウンセラーが、教員と連携協力しそれぞれの生徒の状況に応じたきめ細かい対応を行う。また、生徒支援室と担任・学年会・生活指導部が連携し、複数教員による生徒のサポート体制を確立させる。	現状の組織を基盤として、生徒支援室と担任・学年会・生活指導部が連携を図ることができる環境を整えていく。 相談が必要な生徒及び案件が発生した段階で適宜対応していく。
避難訓練及びシェイクアウト訓練の取組	通常の避難訓練に加え、シェイクアウト訓練を計画的に実施することにより、机の下に身を隠し身の安全を守る意識を高める環境を整えていく。併せて、教員・生徒における救命救急に関する知識、行動基準を組成すべく働きかけていく。	避難訓練：感染症対策を踏まえ、4月中にクラスごとに実施する。 シェイクアウト訓練：4月に予定し、さらに、状況によって実施する。
新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の取組	感染防止対策の啓もう、各教室のアルコール消毒、検温、換気等の環境整備、精神的ケア等、感染状況に対応し適切な取組を行う。感染症防止対策の徹底及び注意喚起のためのメッセージを発信していく。	学校全体で、感染状況に応じて適宜充分な取組を継続していく。

## 図書

取組目標	取組方策	取組スケジュール
図書室利用の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級文庫の設置や新着図書の案内を通して図書室利用者の増加を目指す。(タブレットへの掲載内容を工夫する)</li> <li>・図書室の壁のチョークアートの効果的な利用方法を考える。</li> <li>・貴重本などの展示を行う。</li> <li>・校内文芸コンクールへの協力をする。</li> <li>・「ビブリオバトル」や「アカシヤ祭」への積極的な参加や、「読み聞かせ会」などの開催を促す。</li> <li>・「選書ツアー」を開催する。</li> <li>・本館4階図書倉庫の蔵書の整理を行う。</li> <li>・新図書室前の掲示板の効果的な掲示を工夫する。</li> <li>・アクティブラーニングスタジオの利用を活発化させる。</li> <li>・貴重本などの展示を行う。</li> </ul>	通年 <ul style="list-style-type: none"> <li>・新着図書案内・図書だよりの発行</li> <li>・読書案内の掲示</li> <li>・タブレットへの「新着図書」等の配信</li> <li>・図書館主催の企画展の開催</li> <li>・アクティブラーニング室の管理運営</li> <li>・学級文庫の管理 (4月, 7月, 2月)</li> <li>・図書委員会としての「アカシヤ祭」参加(7月)</li> <li>・ビブリオバトル大会出場 (11月)</li> <li>・選書ツアー(1月)</li> </ul>
芸術鑑賞会の充実	「演劇」の部門から劇団亜アルファーの「竜馬からの手紙」を鑑賞予定である。鑑賞会の実施に向けて立案と準備を充実させる。	芸術鑑賞会 10月20日(木)2回公演

## 広報

取組目標	取組方策	取組スケジュール
広報活動の充実	報道機関に本校の活動の情報を提供し、幅広く伝えるよう適時に依頼する。また、新校舎が完成したのでホームページの写真を大幅に差し替える。また、ストリートビュー(オンライン校舎見学)改善し、新校舎の施設を紹介する。	広報日大東北7月,12月,3月発行 報道機関に情報提供(適時) ホームページ更新(随時) ストリートビュー(オンライン校舎見学)撮影(4月)
生徒募集活動の活性化	<p>新校舎・新ICT授業・工学部連携クラス新設の三つの「新」を中心に広報活動をするとともに、日本大学のスケールメリット・付属高校の利点を伝える。また、中学校主催の説明会での説明の質を上げ、本校の魅力の発信に全力を注ぐ。</p> <p>①中学校説明会・訪問の充実を図るとともに、説明・訪問する教員の質の向上を目指す。</p> <p>②日本大学のスケールメリット及び付属校の利点を分かりやすく載せた学校案内パンフレットを作成する。</p> <p>③学校説明プレゼン資料を更に改善する。</p> <p>④オープンスクールなどのイベントを更に改善する。ハイスクールビジットを全教職員で対応する。</p> <p>⑤専願志願者を増やすため入試相談会を実施する。</p> <p>⑥入試改革を検討し、今後の入学者確保に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校に高校説明会開催の要請(4月,5月)</li> <li>・学校案内完成(5月下旬)</li> <li>・中学校訪問(6月,7月)</li> <li>・オープンスクール・ハイスクールビジット実施(7月,8月)</li> <li>・各中学校主催の高校説明会,本校主催の説明会(7回)の実施(9月~11月)</li> <li>・11月~12月入試相談会開催</li> </ul>

## 管理運営

取組目標	取組方策	取組スケジュール
個々の教職員の課題把握	校務運営委員会及び教職員会議で、教職員が積極的に発言や意思疎通が図られるよう取り組む。また、他の方法や手段で、教職員の課題が把握できないか検討する。	令和4年4月~
環境問題への取組	冷暖房の設定温度を夏季28℃、冬季22℃に設定した節電に取り組み、照明及びエアコンの消し忘れ等の確認を継続して行い、生徒及び全教職員が注意喚起することで、環境への取組に結びつくよう啓発に努める。	通年
自己点検・評価委員会を中心としたPDCAサイクルの構築	自己点検・評価委員会を中心としたPDCAサイクルの構築を全教職員が意識を持って実践していく環境やしくみを構築していく。	通年
施設及び設備の安全と維持管理	生徒が安心・安全な学校生活を送れるよう、学校全体の施設、及び設備の安全と維持管理を推進していく。担任による教室等の管理も徹底していく。	通年

## 中長期的目標の取組結果

### 管理運営

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
新校舎建設に係る財源確保	新校舎建設に伴う借入金返済を確実に実行するため、予算作成時には返済分を除いた上で作成するとともに、最低でも募集定員480名の入学者の確保を目標とした。そのために、オープンスクールや入試説明会を生徒目線に立った内容に変更するなど工夫し、広報活動を積極的に行った。その結果として、令和3年度入試における専願者は326名、令和4年度入試では301名と、一定の成果が出たものと思われる。	A
授業改善のための取組	生徒による授業評価アンケートを実施し、その結果を基に、施設設備や教員に対する指導を行った。	A
いじめ防止のための取組	「いじめ対策、体罰防止・教育相談委員会」を中心に、学内におけるいじめや体罰等の案件について、情報収集を迅速に行い、円滑な対応のために周知徹底を図り、防止対策を講じることができた。	A

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

## 中長期的目標及び方策

### 教育活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
高大連携事業の推進	工学部との高大連携クラス（ロハスクラス）を軌道に乗せ、魅力あるクラスの実現と、高校と大学の未来型の探究活動の場とする。	通年

### 管理運営

取組目標	取組方策	取組スケジュール
新校舎建設に係る財源確保	新校舎建設に伴う、借入金返済を確実に実行するため、予算作成時には返済分を除いた上で作成し、財源確保対策として様々な取組を実践し、引き続き志願者の確保に努める。	令和4年4月～
いじめ防止のための取組 (組織の設置、研修・啓発の実施、いじめの早期発見のための取組、重大事態への対応等)	「いじめ対策、体罰防止・教育相談委員会」による学内におけるいじめや体罰等の案件について、情報収集を迅速に行い、円滑に対応できるよう周知するとともに、研修会（コロナ禍で実施を見合わせている）やアンケートを通じた防止対策を講じる。	令和4年4月～